資源循環型社会形成を目指して

取材：RING編集委員

福島県
郡山市

郡山市の人口は約31万人。東北の最南端・福島県のほぼ中央に位置しており、優れた交通網から人や経済・工業・流通が交差する要衝として「陸の港」とも称される中核市です。郡山市では、2016年度比で2027年度までにごみ排出量の20%削減を目標に掲げ、みんなで目指す「郡山ごみ減量20%」をスローガンのもと、ロードマップに基づいた具体的な施策を実施・展開しています。

市内の施設などに掲示される郡山ごみ減量20%のポスター

市民・事業者・行政が一丸となったリサイクル活動を目指す

富久山クリーンセンター内の手選別作業

15個を1ユニットとして保管されるベール

富久山クリーンセンター内の体験型学習コーナー

郡山市では、2000年4月の容器包装リサイクル法の完全施行にともない、まずは2週に1回PETボトルの単独回収を開始。その後、増加傾向にあった排出量に合わせて、2003年4月から週1回の回収に変更されました。収集場所は、自治会約3,700箇所、マンションなどの集合住宅約2,100箇所を合計した約5,800箇所あります。PETボトルはキャップ・ラベルをはずし、中身を軽くゆすいで潰したものを透明または半透明の袋に入れて排出します。

市内には2箇所のクリーンセンターがありますが、富久山クリーンセンター内のリサイクルプラザでPETボトルの中間処理を行っています。ここで破袋、選別（担当スタッフ2名による手選別）、ベール化までが行われ、通常PETボトルのベールは1個約15kg。輸送のため15個を積み重ね、1個に梱包されます。収集量が多い場合は、約1.5m四方の大型ベールにする場合もあります。なお、この富久山クリーンセンターでは施設の見学会も実施しており、体験型学習コーナーでは、クイズなどの体験も可能となっています。

今後の課題と啓発活動

郡山市は、東日本大震災をきっかけにごみの排出量が増加し、そこから高止まりが続いている状況です。PETボトルの分別においては、可燃ごみへの混入や事業系一般廃棄物として排出されてしまう事案、収集日を誤って排出されてしまうケースなどが見受けられます。こうした実情を改善するためにも、さらなる周知と継続的な啓発は必須です。

そこで市では、チラシやポスター、PR動画による啓発活動を行っています。市役所西庁舎1階ロビーと5R推進課窓口にて「ごみ減量シール」を配布しており、これをごみ箱に貼って視覚的に訴え、分別意識と減量行動の定着を図っています。

また、Webを活用した周知にも力を入れ、ごみと資源物の分別方法や収集日などに関する情報を網羅した「郡山市ウェブサイト」のチャット機能や、品目で分別方法などの情報を得ることができる無料サイト「こおりやまごみサク」で検索可能となっています。加えて、スーパーの店頭回収や民間業者が設置した資源物回収ボックスなどを掲載している「資源物回収スポットマップ」では、一覧の店舗名をクリックすることで、資源物回収スポットの位置情報や収集品目が表示されるようになりました。

回収機会の拡張としては、2021年12月に郡山市は大手コンビニチェーンとの包括連携協定を締結。市内のコンビニ店舗にはPETボトル回収機が常設されており、広く市民に活用を呼びかけています。

市内の小学校と5R推進課との協奏事業「ごみ減量教室」から、環境教育への取り組みも行っています。これは小学4年生を対象とした出前授業で、2025年度には15校761名に向けて実施。PETボトルの分別体験などを通じて、リサイクルに関心を持つきっかけとして反響をいただいています。併せて企業や団体など、大人を対象にした講座も開催されています。

「人」「モノ」「情報」がつながり、交流によって発展を続けてきた郡山市。市民・事業・行政が一体となって高い意識を育み、今後もごみ減量と循環型社会への推進を目指していきます。

（取材日：2025年12月17日）

（左から）伊東氏、佐藤氏、岡部氏、柳沼氏

郡山市役所 環境部
5R推進課 課長
伊東 洋祐
資源循環課 課長
佐藤 伸治
資源循環課
富久山クリーンセンター所長
岡部 成利
5R推進課 課長補佐
柳沼 洋史

兵庫県

宝塚市

「歌劇と温泉のまち」で知られる宝塚市の人口は約22万人。市域は南北に細長く、主に大阪・神戸のベッドタウンとして宅地開発が進む南部市街地と、豊かな自然に囲まれた北部の田園地域から成っています。宝塚市は2025年3月に飲料メーカー、石油関連企業と「宝塚市における循環型社会の実現に関する連携協定」を締結。3者が相互に協力・連携することで、持続可能な資源循環型・脱炭素社会の実現を目指しています。

連携協定で実現するサーキュラーエコノミー

宝塚市におけるPETボトルの単独回収は、容器包装リサイクル法の施行に対応するため、1999年4月から開始されました。ボトルはキャップ・ラベルを外し、軽くすすいで潰した後、透明または半透明の袋でごみステーションに排出されたものを月2回、パッカー車で回収。分別ルールが守れていない袋には、啓発用シールを貼り付けた上での取り残しを採用しています。

クリーンセンター内PETボトル保管場所

中間処理を行うクリーンセンターでは、破袋から選別まで手作業で行い、ベール化していましたが、2024年から建て替え工事にともなう仮設運用となり、選別・圧縮は外部委託で実施中。現在、宝塚市新ごみ処理施設整備・運営事業として、民間業者が施設の整備・運営を包括的に行うDBO（設計「Design」、設計「Build」、運営「Operate」を一括して委託）方式を採用しています。現在焼却棟が建っている場所に新リサイクル棟を建設するため、リサイクル棟は2031年竣工、完成後は従来通りセンター内で破袋からベール化までを行う予定です。

今後の展望に向けた環境教育

宝塚市の循環型社会に向けた協定締結は2段階で行っており、前述の飲料メーカー・石油関連企業との協定に続き、飲料メーカー・中間処理企業・商社との水平リサイクルに関する協定も締結されています。

2026年度より、PETボトルはボトルtoボトルのリサイクルに移行。市が選別・圧縮を実施して、配送・原料製造は委託企業、飲料メーカーがリサイクルボトルの使用・販売を行います。また、市内で出た家庭用の廃食油も回収。これは飛行機燃料（SAF）に活用され、製造時にPETボトルのもととなる原料も同時に生産されます。

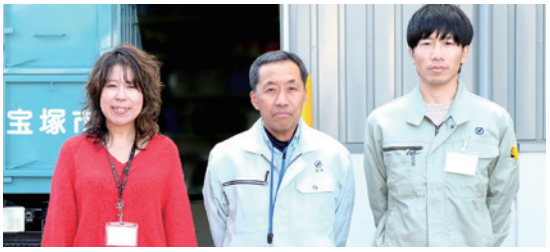
こうしたPETボトルのリサイクルには、やはり市民の協力が不可欠であり、「環境学習及び啓発・周知活動に関すること」にも事業者と連携・協力して取り組んでいます。現在、クリーンセンターが建て替え中のため、小学生向けの施設見学は休止中ですが、その代替措置として、スケルトンパッカー車を活用した出前講座を実施中。2025年10月からは、飲料メーカーの専任講師が、ボトルtoボトルで資源を循環させる仕組みを学習するプログラムを開催しています。

使用済みのPETボトルが、新しいPETボトルとしてリサイクルされる水平リサイクルは、市民への説明も明確で、理解を得られやすいシステムです。この度の協定締結により、循環型社会に向けた具体的な取り組みが開始でき、大きな一歩を踏み出すことになりました。

（取材日：2025年12月15日）

選別・圧縮の中間処理を行う
株式会社ダイシン（兵庫県川西市）

手選別作業員　：6人
処理量　　：12.5トン／日
ベールサイズ　：約200kg（約1m×1m）



（左から）岡田氏、古田氏、田路氏

宝塚市役所 環境部
クリーンセンター管理課
課長　古田　健
係長　浜崎 尚子
係長　岡田 真由子
係長　田路（とうじ）敏幸

宝塚市理科教育部会の取り組み

宝塚市は2022年度より新ごみ処理施設（クリーンセンター）の建設を進めており、新ごみ処理施設では、ケミカルリサイクルを行う施設が建設予定です。市からクリーンセンターの新しい焼却炉の説明を受け、中学校理科担当教員の組織、宝塚市理科教育部会は、このことを理科の授業に取り入れる活動を行いました。

この活動と宝塚市立長尾中学校での2025年度の阪神地区6市1町の理科担当教員や教育委員会の方々が集まる阪神理科教育研究大会で、PETボトルのリサイクルについての公開授業が行われました。このことにより、当協議会に宝塚市内の中学校数校より資料、サンプル依頼があり、提供しています。

長尾中学校については特集「未来を担う子供たちへ！ PETボトルリサイクルの環境教育、最新事例の紹介」のP5をご覧ください。